

1992年の同様の特集号で、病理医の間で癌の診断に大きな違いがあるとして世間を騒がせた。6年が経過した現在、この違いが解消されたか否かが今回の特集の目的であり、診断病理医も前回とはほぼ同様のメンバーとした。結果は、本編に見るごとく、今回も各診断医の違いは依然として存在すると言わざるを得なかった。しかしながら、座談会の中でも強調されているように、呈示された症例の内容あるいは分析の仕方によっては診断の差異はそれほどでもないと思える。今回も特に強調しておきたいのは、高度異型腺腫か境界病変

か癌かの診断で意見の分かれた病変はほとんどが粘膜内病変で、癌としても低異型度の病変であり、特に生検診断で治療法を決定するうえではその診断名上の差異は問題にならない病変であるという点である。ただ、各施設の臨床医はその施設の病理医の診断に基づいて診断し、統計的な作業を行っているために病理診断名の差異が問題であることは否定できない。今後、より客観的な指標に基づいた、診断病理医共通の癌の組織診断基準の作成が急務であろう。

胃と腸

11月号（第33巻・第12号）予告

発売予定

11月25日

定価（本体2,100円＋税）

主題／胃癌 EMR の完全切除の判定基準を求めて

序説	金沢大がん研究所・腫瘍外科	磨伊正義
主 題	早期胃癌に対する内視鏡治療の効果判定	
	―特に不完全切除例の効果判定	埼玉県がんセンター・消化器科 多田 正弘・他
	胃癌 EMR の一括切除による治癒切除の判定基準	
	―水平切除断端と臨床経過との検討	国立がんセンター中央病院・内科 後藤田卓志・他
	早期胃癌の水平方向への拡がりに対する胃粘膜切除術	
	―ERHSE 法の評価	太黒胃腸科病院 平尾 雅紀・他
	胃癌 EMR の一括切除による根治的切除の判定基準	
	―特に垂直方向への拡がりからみた検討	慈恵医科大・内視鏡科 藤崎 順子・他
	胃癌 EMR の一括切除による完全切除の判定基準	
	―垂直方向への拡がりからみた検討	九州大・2 病理 大屋 正文・他
	胃腫瘍性病変 EMR の分割切除による完全切除の判定基準	東京医科歯科大・光学医療診療部 竹下 公矢・他
	胃癌 EMR の分割切除による完全切除の判定基準	
	―特に多分割例について	社会保険中央総合病院・消化器科 浜田 勉・他
	胃癌 EMR 後手術例の病理組織学的検討	
	―根治判定基準拡大の可能性	癌研・病理 二宮 康郎・他
	胃癌 EMR 切除標本からみた手術の適応	熊本大・2 外科 三隅 厚信・他
座談会	胃癌 EMR の完全切除の判定基準を求めて	金沢大がん研究所・腫瘍外科 磨伊 正義・他

胃と腸（第33巻 第11号）

編集 早期胃癌研究会

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷 5-24-3

☎ 本誌編集室直通(03)3817-5714

FAX (03)3815-7802

E-mail: itocyo@nna.so-net.or.jp

1998年10月25日発行(毎月25日発行)

1部定価(本体2,100円＋税)(配送料124円)

1998年年々ぎめ予約購読料29,600円

(増刊号4,400円を含む13冊)(送料弊社負担)

☎ 販売部直通(03)3817-5659

振替口座 00170-9-96693

印刷所 永和印刷(株) ☎(03)3813-5001

広告取扱 医界弘報社 ☎(03)3814-5771

• Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo. © 1998, Printed in Japan.

• 本誌に掲載された著作物の複写・複製・転載・翻訳・データベースへの取り込みおよび送信(送信可能化を含む)に関する許諾権は医学書院が保有しています。

• **R** <日本複写権センター委託出版物・特別扱い>

• 本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。本誌は日本複写権センターの特別委託出版物です。複写される場合は、そのつど事前に日本複写権センター(03-3401-2382)の許諾を得てください。

• 医学書院ホームページ(インターネット) <http://www.igaku-shoin.co.jp> (担当)小林・小松原・小長谷・長谷川